

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立川副中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

令和4年4月19日（火）

#### ■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- |   |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。<br>②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。<br>調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|---|

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

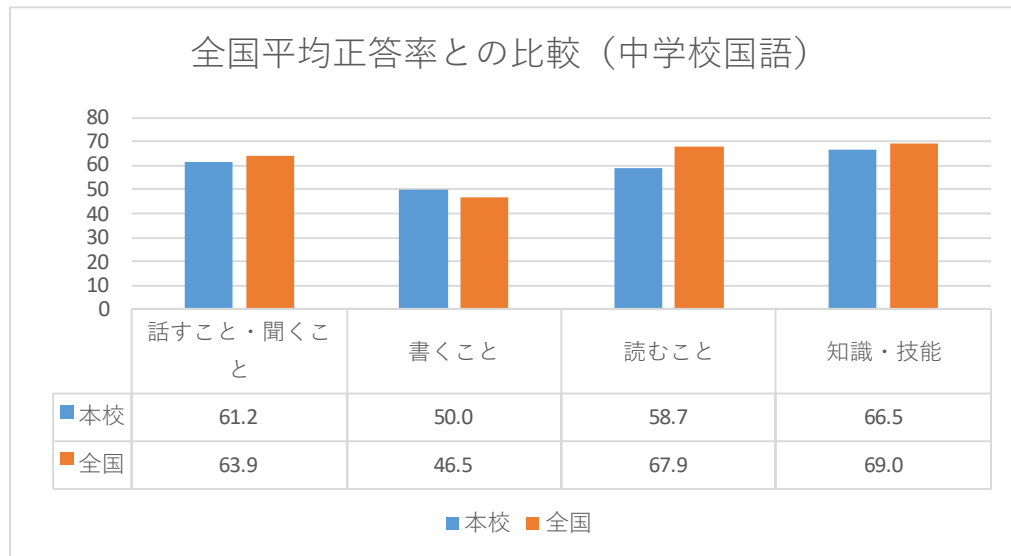
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

#### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語



#### (1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。「書くこと」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、全体的には全国平均よりも低くなっていますが、文章を書いて答える問題は、無解答率が高い傾向にありました。

#### (2) 成果と課題

授業にまじめに取り組む生徒が多く、学習の効果も出ています。特に、表現につながる活動には意欲的で、俳句の創作や作文、音読など、楽しみながら取り組んでいます。また、文学的文章の学習においても、登場人物の心情の変化や作品の主題を自分の言葉で表そうとしています。一方、説明的文章の読み取りについてはスキルの定着が見られず、内容の読み取りができない場合があります。特に長文であったり日頃使わない言葉が頻出したりすると、学習に対する意欲が低下する傾向があります。

#### (3) 学力向上のための取り組み

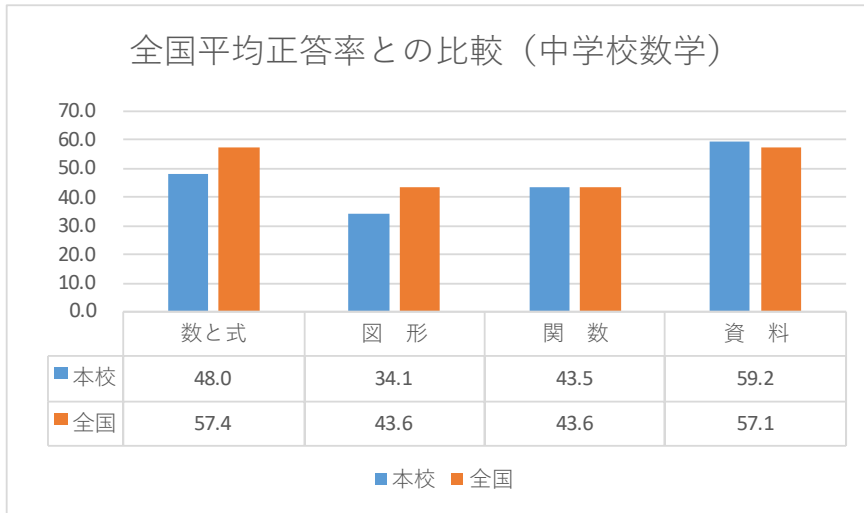
##### 【学校では】

- 授業のめあてを明確にし、この学習がどんな力になるのかということを伝えています。学習の振り返りをする中で、自分についた力、これからつけたい力を明らかにしています。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその根拠を、相手に伝わるように書く活動をさせます。その前提として文章を読ませ、内容を的確に読み取り、必要な情報を得られるようにします。
- 辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- 一人一台タブレットを活用し、学習の手助けとなるような機器の活用をしています。また、プレゼンテーション能力の向上も図っています。

##### 【ご家庭では】

- 新聞やテレビなどのメディアから得たニュースや情報を家族で共有し話題にしてください。また、それらに対する各々の感想や意見を語り合ってください。わからないことが出てきたら、調べる習慣をつけたいものです。また、読書も勧めます。家族で同じ本を読んでみてはどうでしょう。
- 学校から宿題として出されているのはどんな内容なのか、発展的な学習としてどんなことをしているのか等、家庭学習の内容に関心をもってください。
- タブレットを活用した学習も一緒にしてみてください。(eライブラリなど)

## 2 数学



### (1) 結果

全国平均を下回る結果でした。領域によっては、全国平均を上回っています。また、無解答率を見ると、記述式の問題の無解答率が高くなっている傾向がありました。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、「D データの活用」の領域の確立に関する問題の正答率が全国平均正答率を3.8ポイント上回っていました。また、「C 関数」の領域の、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題の正答率も全国平均正答率を6.3ポイント上回っていました。与えられた情報を的確に読み取り、判断の理由を数学的に考えようとする問題では正答率が上回りましたが、基本的な計算などの、技能面の定着に課題が感じられる結果となりました。

今後、日々の授業で技能の定着を図るとともに、書く活動や説明する活動も継続して取り入れることが必要であると考えています。

### (3) 学力向上のための取り組み

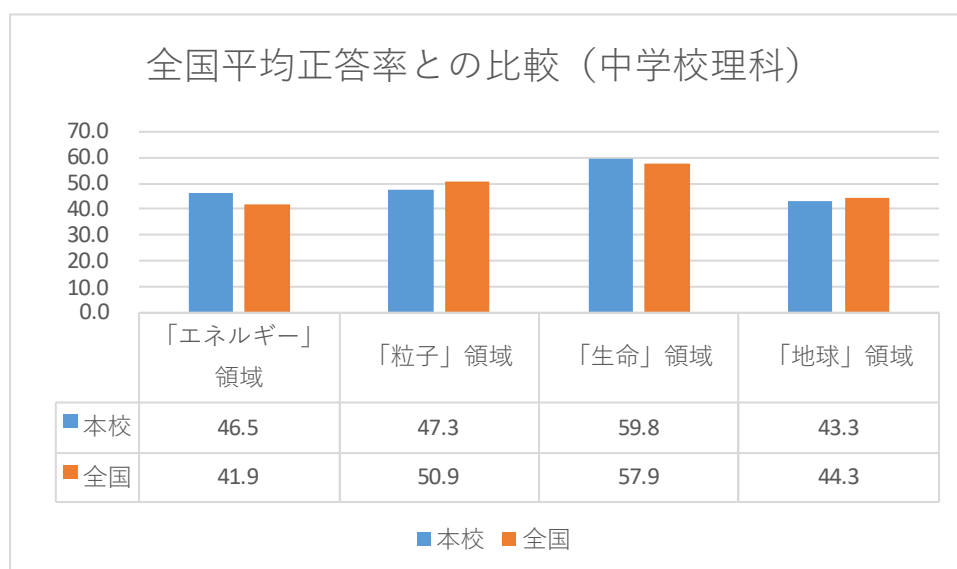
#### 【学校では】

- 日々の授業の中で、これまでに学んだ知識や技能を振り返る場面を設定し、計算の基本となる力を身につけさせていきたいと思えます。また、ただ計算して答えを出すだけでなく、「なぜそうなるのか」と式の意味を考えさせたり、求め方を丁寧に確認したりしながら学習を進めていきたいと思えます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノートチェック、プリント、ドリル、単元末テスト、振り返り、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

#### 【ご家庭では】

- 生徒のプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 日常の中で、「これって数学？算数？」と思うことができる場面は多々あります。そのような場面で、一緒に考えたり調べたりすると生徒の知的好奇心の高まりにもつながり、数学への意欲も高まっていくのではないかと思います。

### 3 理科



#### (1) 結果

全国平均を上回る結果でした。特に「エネルギー」の領域では大きく全国平均を上回っています。また、無解答率は、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっていました。

#### (2) 成果と課題

「エネルギー」の領域においては、知識及び技能を活用して説明する問題の正答率が全国平均正答率を18.8ポイント上回っていました。また、「生命」の領域では、見方を働かせながら比較し分析して解釈する問題の正答率が全国平均正答率を6.2ポイント上回っていました。一方で、グラフを作成すること、図や画像をデータと関連付けて分析・解釈することに苦手が見られました。データを読み取ったり、結果を図やグラフに表したりする思考・判断・表現の力を高めていく必要があります。日々の授業で、実験結果のデータの記録をグラフや図で表現する、そのデータやグラフを関連づけて分析や解釈する、さらにその分析や解釈を説明するなど、これらの活動を継続することが重要であると捉えています。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 実験後の考察や現象を説明することに力を入れています。また、グループ活動を取り入れ、友達と対話を通して、自分の考えを深め広げています。
- 授業の始めの小テストを、全学年共通で取り組み、前時の内容の確実な定着を図っています。
- 実験方法を自分たちで立案したり、生徒同士で教えあったり、主体的な学びになるよう工夫しています。
- タブレットを活用して、学びを深めています。

##### 【ご家庭では】

- 日常生活の科学現象に対する素朴な疑問や不思議を、ぜひ親子で考え、調べ、説明しあってください。子どもたちは説明することが好きです。説明していく中で考えがまとまり、また、知識が自分のものとして定着していきます。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行き、科学への興味・関心が高まっていくといいです。

## 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

### (1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	78.8%	79.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	34.1%	37.0%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	58.8%	56.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	28.2%	36.0%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	18.8%	21.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	70.6%	73.5%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	87.1%	82.6%

自分のよさや挑戦心、社会の役に立ちたいと思っている生徒は、全国平均を下回っており、自己肯定感がやや低いことが伺われます。いじめの項目に関しては全国平均を上回る高い意識をもっています。本校が落ち着いた状況にあり、一人一人が生活しやすい環境にあることが分かります。

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	7.1%	15.4%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	4.7%	9.9%
「2時間以上、3時間より少ない」	15.3%	25.3%
「1時間以上、2時間より少ない」	35.3%	34.3%
「30分以上、1時間より少ない」	18.8%	17.0%
「30分より少ない」	12.9%	8.5%
「全くしない」	12.9%	4.9%

家庭学習については、計画を立てて勉強している生徒は、全国平均を大きく下回る状況です。1時間未満の生徒が4割近くおり、個人差が見られます。家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や生徒に伝えて家庭学習が習慣化するよう、また、自分の目標に向かって計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

### (2) 改善に向けての取り組み

#### 【学校では】

- 学校からは、学年に応じた課題を出しています。自主学習（自学）についても毎日取り組んでいます。授業で学習したことが定着できるよう、各教科の課題を通して繰り返し復習させていきます。
- 道徳や特別活動において、体験活動や成功体験を取り入れながら、自己肯定感をはぐくんでいきます。いじめのない学校づくりのために、毎月の生活アンケート等を通して、生徒が相談しやすい環境を継続してつくっていきます。

#### 【ご家庭では】

- 学校便りや学年便りなどをご覧になり、学校の話題について会話を増やしてください。
- 中学校では、「学年+1」時間の家庭学習の時間確保をお願いしています。毎日決まった時間に家庭学習を行う習慣づけをお願いします。
- SNSに関するトラブルも多くなっています。SNSの使い方については、ご家庭でしっかりと話し合っ、各家庭のルールを決めていただくようお願いいたします。